



友人でもある神谷悠山さん(右)に東川特産ワインの特長をアピール(東川振興公社物産センターで)

今、生き生きと

キトウシ森林公園森林体験研修センター
織田 秀幸 (おだ ひでゆき) さん

昨年誕生した森林体験研修センターを活動拠点として、キトウシ森林公園、東川の自然の魅力売り出す発信が少しずつ増えています。昨年からは始まった森林ウォーキングは、森林浴の健康効果を広める講座。自然の中で遊び、楽しみながら森の効用を伝えたいと森で遊ぶ講座をいっぱい考えています。たとえば段ボール箱1個で出来る簡単くん製づくりなど、「この森がある」という豊かさを伝えるつもりです。

「登山愛好家の一人から『この山は最初に練習する山』と聞いたので、まず案内板を作りたい。近くの第二小学校児童がキトウシ森林公園の観光案内パンフレットを作ってくれたので、案内板の制作も頼んでみるつもり」と誰でも気軽に森の散策を楽しんでもらえる魅力づくりを模索しています。

「ここでなければ」というお客さまに楽しんでもらえる場にした

い。

「65歳までには地域おこし、まちづくりの講演活動をできるほどの実力をつけたいんです。地域おこしの技を習得したい」という目標を持っています。

アウトドア派を自認し、中でも一番の趣味が釣り。趣味が高じて、釣り雑誌に寄稿するライターになつてしまいました。旭川市在住の構成作家でペンネーム、神谷悠山氏(54)からの

紹介で連載をスタート、今年5月号で21回目の釣り紀行になりました。忠別湖を舞台に、美しい魚体のニジマスを追いかけています。次号はその記事にも登場

している神谷氏のインタビューを予定しているようです。

◇

20年間勤務した自動車ディーラー在職当時、旭川、名寄で車と雑貨販売の複合店舗づくりを企画の段階からオープンまで手掛けたそうです。そこでプランニング実務を学びました。自らの手で企画を立ち上げて実現させる仕事に魅力を感じ、「いつかは独立を」との思いに。

その間大好きな釣りを通じて東川町内に釣り仲間が出来、忠別川が大好きな釣り場。その川が汚れていることに心が曇りました。「きれいな川なのにペットボトルを捨てていく釣り人が多い」。5年前、ごみをきれいにしなくすためのボランティア団体づくりを河川管理をしている旭川開発建設部に働きかけ、年2回活動もしていたそうです。



段ボール箱づくり講習(5月23日、くらし楽センターイベント会場で)



NPO法人、北海道森林療法研究会理事の旭川医大、中村正雄名誉教授(右)と森林ウォーキング(5月13日、キトウシ森林公園) 〓関連記事56

「機会があればこの町で働きたい」。そんな思いで応募したのが地域おこし協力隊でした。



「スキーのお客さまを夏のキャンプ場の利用にもつなげたい。自分にとって居心地の良い所は何度でも来てくれる。森林体験研修センター、貸別荘ケビン、パークゴルフ場それぞれのニーズをつなげたい」とキトウシファンを増やす企画作りを模索しています。

織田秀幸さん

旭川市出身、58歳。旭川大学卒業。旭川市内の自動車会社を経て、地域おこし協力隊として4月から東川振興公社キトウシ森林公園森林体験研修センター勤務。北海道の釣り専門月刊誌ライターとしても活動中。